

最近の道内経済動向

○道内景気は、緩やかに持ち直している。
 ○先行きは持ち直し基調が続くとみられるものの、物価高の影響が広がることで持ち直しのテンポは緩やかなまま推移すると予想している。

(注) 基調判断は、2023.6.21時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(4~5月実績が中心)。

●個人消費は持ち直し基調にある

4月の供給側の統計(商業動態統計など)をみると、百貨店・スーパー(前年比+4.1%)やコンビニエンスストア(同+5.3%)などの販売額のほか、新車販売台数(軽含む乗用車、同+24.5%)も増加した。需要側の統計をみると、家計の消費支出額(4月の家計調査を基に算定)は同+2.6%と11ヵ月連続の増加となった。総じて個人消費は物価上昇が足かせとなりつつも、持ち直し基調にある。

●観光は緩やかに持ち直している

外国人入国者数(5月)は6.3万人と、新千歳空港の国際線定期便運航の再開が本格化に向かう下、緩やかながら持ち直している。4月の来道者数(国内交通機関経由)は、93.7万人(前年比+44.7%)と2021年11月以降、前年比で増加が続いている。水準では、コロナ前(19年4月)と比較して90.4%まで回復した。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人客。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

●住宅建築は減少傾向にある、設備投資は持ち直しの動きがみられる、公共工事は持ち直しの兆しがみられる

新設住宅着工戸数(4月)は、前年比▲4.1%と減少が続く。利用関係別にみると、貸家(同+30.7%)が増加した一方、持家(同▲18.1%)、分譲住宅(同▲48.3%)の減少が全体を押し下げた。北海道財務局が6月13日に公表した法人企業景気予測調査(23年4-6月期、北海道分)の設備投資計画(ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く)では、23年度の全産業は前年比▲3.8%、製造業は同+14.9%、非製造業は同▲9.0%となった。全産業では前年の大型工事の反動減であり、基調として底堅く推移するとみられる。公共工事出来高(4月)は1,022.9億円(前年比+19.0%)と4ヵ月連続で増加した。公共工事請負金額(5月)は1,656.6億円(同+14.9%)と2ヵ月連続で増加となった。公共工事請負金額を発注機関別にみると、国(同▲6.7%)が減少した一方、道(同+27.9%)、市町村(同+12.6%)が全体を押し上げた。

●生産は弱含んでいる

鉱工業生産(4月)は、前月比▲0.5%と3ヵ月ぶりの低下となった。輸送機械(同+7.0%)などが上昇した一方、一般機械(同▲7.6%)などが低下した。

●輸出は持ち直し基調が一服している

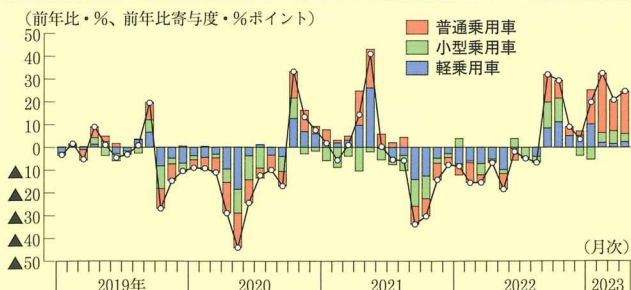
5月の通関輸出額(速報値)は285.6億円(前年比▲4.4%)と2ヵ月ぶりの減少となった。品目別では、「魚介類・同調製品」(同+15.7%)や「自動車の部分品」(同+23.0%)などが増加した一方、「鉄鋼」(同▲34.5%)、「石油製品」(同▲96.7%)などが押し下げたほか、船舶(同▲98.6%、同▲32.3億円)の減少がかく乱要因となった。

●雇用情勢は緩やかに持ち直している

4月の有効求人倍率(パート含む常用)は、0.97倍(前年差▲0.03ポイント)となった。有効求人倍率が1倍を下回ったのは2021年9月以来。有効求職者数(パート含む常用)は89,654人(前年比▲2.8%)と8ヵ月連続で減少となった。雇用情勢は総じてみれば緩やかに持ち直している。

道内の新車販売(軽含む乗用車)台数の推移について

道内の新車販売台数(軽含む乗用車)は、足元で堅調に推移。特に、普通乗用車(4月は前年比+48.9%)の回復が全体をけん引。水準では、コロナ禍前の19年4月と比べて94.2%まで回復した。先行き、新車販売台数は自動車生産の復調(新車需給のひっ迫緩和)を背景に持ち直し基調が続くとみられる。



(注) 普通乗用車は3ナンバー車、小型乗用車は5、7ナンバー車を対象。それぞれ新車販売台数としての計上は登録ベース。軽乗用車は届出ベース。
 (出所) 一般社団法人 日本自動車販売協会連合会札幌支部、一般社団法人 全国軽自動車協会連合会札幌事務所の資料を基に道銀地域総合研究所作成